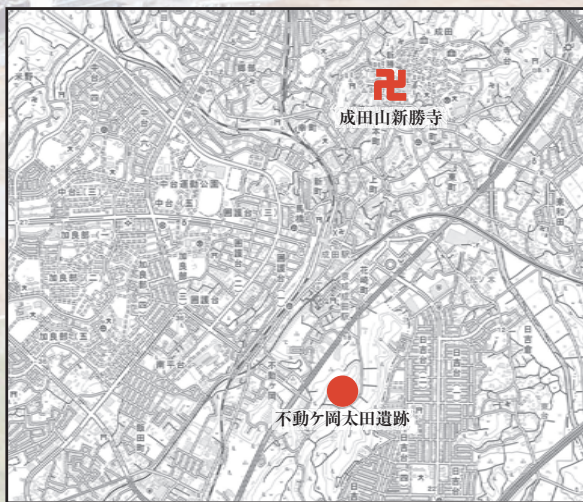




ふ どう が ね が ね の た 成田市不動ヶ岡太田遺跡(第3次)

不動ヶ岡太田遺跡は成田市の南部、根木名川^{ねこな}によって形成された谷津の西岸、標高約36mの台地上に位置します。令和6年度から調査が始まり、令和7年度の第3次調査まで発掘を行った結果、8世紀から9世紀までの奈良・平安時代の集落であることが分かりました。



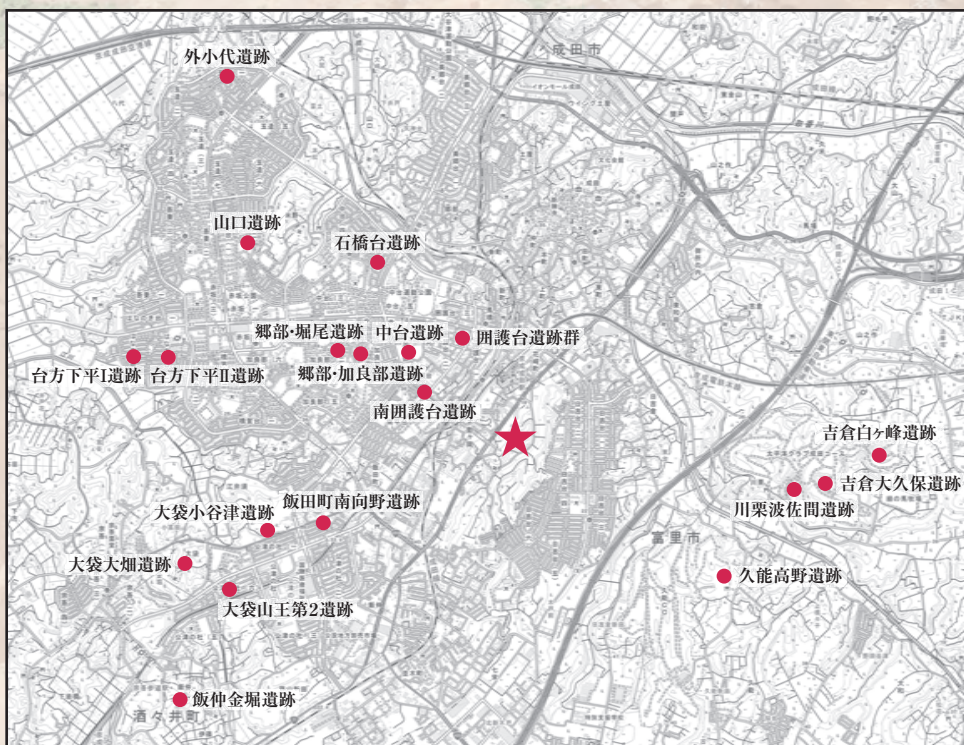
不動ヶ岡太田遺跡位置図

不動ヶ岡太田遺跡は成田市の中心部からほど近く、成田山新勝寺^{なりたさんしんしょうじ}までわずか2kmという位置にあります。

新勝寺は現在では有名な仏教寺院ですが、不動ヶ岡太田遺跡の時代には、存在していませんでした。

しかしながら、この地域一帯では仏教に関係すると考えられる遺跡が多く見つかっており、それは仏教関連遺物と呼ばれる遺物や、仏教に関係する遺構を検出していることからわかっています。

今回の調査で検出した遺構は、縄文時代の陥穴が5基、奈良・平安時代の竪穴住居跡が4軒、掘立柱建物跡が2棟です。この掘立柱建物跡の内1棟は、四面廂付掘立柱建物跡^{しめんひさしつきほったてぼしらたものあと}と呼ばれる珍しい遺構です。(次ページへ)



仏教関連遺物出土遺跡

BOOK
FIELD

